【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成24年12月27日(2012.12.27)

【公表番号】特表2009-513654(P2009-513654A)
【公表日】平成21年4月2日(2009.4.2)
【年通号数】公開・登録公報2009-013
【出願番号】特願2008-537926(P2008-537926)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　47/42　　(2006.01)
Ｂ０１Ｊ　13/04　　(2006.01)
Ｃ０７Ｋ　14/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　47/42
Ｂ０１Ｊ　13/02　　Ａ
Ｃ０７Ｋ　14/00　　ＺＮＡ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成24年11月12日(2012.11.12)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００７３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００７３】
複合ポリペプチドに含めるための適した機能的領域には、皮膜の安定性および／または皮膜／カプセルからの封入材料の放出を制御するためのシステイン含有モチーフまたはプロテアーゼ認識部位；免疫原性を制御するためのT細胞エピトープ、B細胞エピトープ、または細胞傷害性Tリンパ球エピトープ；たとえばN結合型またはO結合型グリコシル化のような、酵素触媒による糖または多糖の接着に適した配列；表面の機能性および組織操作を制御するための細胞外マトリクスタンパク質におけるペプチド認識配列；抗菌特性を制御するための抗菌ペプチドからの配列；インビボでの特異的ターゲティングのための膜貫通受容体の細胞外ドメイン；および二価陽イオン結合を制御するためのEFハンドモチーフのような陽イオン結合モチーフが含まれる。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１６０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１６０】
複合ペプチドの残基あたりの正味電荷量は、表面吸着領域または機能的領域の構造を変化させることによって決定することができることに注意されたい。本実施例において、これまでの実施例の複合ペプチドの正味電荷は、表面吸着領域のみの構造を変化させることによって変化する。原則的に、任意の複合ペプチドの残基あたりの正味電荷量を制御するために同じアプローチを用いることが可能である。しかし、このアプローチにおいて、表面吸着領域および機能的領域は、複合ペプチドが可溶性となるために独立して可溶性でなければならない。